9月10日は「球都桐生の日」

問い合わせ＝スポーツ・文化振興課スポーツ振興担当（☎内線658）

「球都」と呼ばれる4つの理由

桐生市は、野球がさかんなまちであり、全国でも数少ない「球都」です。

そこで、野球をテーマにした公民連携によるまちづくり活動を推進していくため、9月10日を「球都桐生の日」として制定しました。

なお、桐生市が「球都」と呼ばれているのには、次の4つの理由があります。

1 市内5校が甲子園で活躍

市内の高校5校（桐生高校、桐生工業高校、樹徳高校、桐生第一高校、桐生市立商業高校）が甲子園（全国高等学校野球選手権大会）に出場して、輝かしい成績を残しています。

なかでも、平成11年には、桐生第一高校が夏の甲子園大会で、群馬県初となる全国優勝を飾っています。

また、今年は樹徳高校が、30年ぶり3度目の甲子園大会出場を果たしました。

2 昭和の知将 稲川東一郎監督

昭和2年に桐生中学校（現桐生高校）の指導者となり、昭和8年に監督に就任した稲川東一郎氏は、綿密なデータを活用した知将として知られ、甲子園に24回（春の選抜大会11回、夏の甲子園大会13回）出場を果たし、うち準優勝が2回、ベスト4が2回という成績で、球都桐生と呼ばれる礎を築きました。

3 日本一の監督 市から6人輩出

桐生市（桐生高校含む）出身の6人の監督が各野球大会などで日本一に輝いています。

・川島勝司監督

昭和47年、日本楽器（ヤマハ）の監督として、全国都市対抗野球大会で優勝。

・前野和博監督

昭和58年、東芝の監督として、全国都市対抗野球大会で優勝。

・山田富監督

昭和60年、桐生市OBチームの監督として、全日本還暦野球大会で優勝。

・河原井正雄監督

平成5年、青山学院大学の監督として、全日本大学野球選手権大会で優勝。

・福田治男監督

平成11年、桐生第一高校の監督として、夏の甲子園大会で優勝。

・渡辺久信監督

平成20年、西武ライオンズの監督として、日本シリーズ制覇。

4 戦後プロ野球の復活の地

昭和20年11月24日に戦後初のプロ野球東西対抗第2戦が新川球場（現新川公園）で行われたことから、日本野球機構では新川球場を「戦後プロ野球の夜明けの地」と紹介しており、日本野球聖地・名所150選にも「桐生新川球場跡」が選定されています。

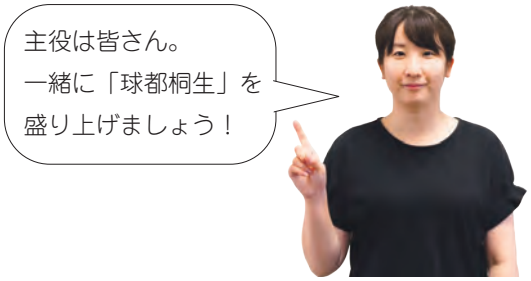
また、昭和20年11月25日には、新川球場で、プロ野球東軍と稲川監督率いる戦後初めての社会人野球チーム「全桐生」が対戦し、「全桐生」が勝利しました。このことは、終戦直後で沈みがちであった桐生市民に、大きな喜びと活力を与えてくれました。

球都桐生プロジェクトがスタートします

球都桐生プロジェクトは、多くの人や企業の皆様のご理解をいただきながら、公民連携事業としてオール桐生で長期的に推進していくプロジェクトです。

今後の取り組み

庁内に球都桐生プロジェクト推進準備委員会を設置し、公民連携による推進体制を構築します。また、「球都桐生の日」を象徴するような、大会誘致などの野球関連事業による地域活性化策を検討していきます。



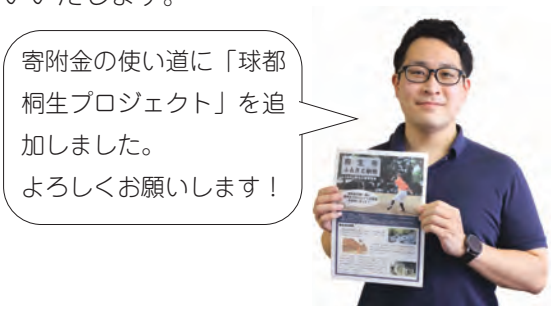
スポーツ・文化振興課　戸丸主事

財源確保の工夫

本プロジェクトの推進に向けて、市では、ふるさと納税や企業版ふるさと納税の活用、スポンサー企業の公募など創意工夫し、財源の確保にも努めます。

株式会社オープンハウスグループ様から、本プロジェクトへの賛同により、企業版ふるさと納税にて、ご寄附をいただきました。

多くの人や企業の皆様からのご支援をお願いいたします。



企画課　若井主事

令和５年に開催します

東京六大学野球オールスターゲーム

期日＝令和５年８月26日（土）
場所＝小倉クラッチ・スタジアム（桐生球場）

「球都桐生の日」制定を記念して、東京六大学野球連盟（東京大学・立教大学・早稲田大学・慶應義塾大学・明治大学・法政大学）から選抜された選手の混合チームによるエキシビションマッチ「東京六大学野球オールスターゲーム」を開催することが決定しました。

なお、今回の桐生市開催が、関東で初めて開催するオールスターゲームとなります。

※詳細については、随時、市ホームページなどでお知らせします。

東京六大学各野球部ロゴマーク

東京大学　立教大学
早稲田大学　慶應義塾大学
明治大学　法政大学

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3．すべての人に健康と福祉を
4．質の高い教育をみんなに
11．住み続けられるまちづくりを